

小専社会第 5 回「重ねるハザードマップでみる身近な地域の自然災害」の作業内容と手順

○作業内容：PC で重ねるハザードマップを利用して、附属小学校とその周辺の避難所を対象にして、災害時の危険を調べる。

○手順：

- ①PC でブラウザ（Microsoft Edge や Safari などのインターネットを閲覧するソフトウェア）を起動する、
- ②登録したブックマークから「小学校専門科目社会地理分野のページ」を開く。ブックマークに登録していない人は、Google 等の検索サイトで「山田地理研究室」を検索して、開いた「山田地理研究室」から「小学校専門科目社会地理分野のページ」を開く。
- ③開いた「小学校専門科目社会地理分野のページ」の第 5 回 5/20 の、記入用紙とある赤茶ボタンをクリックする。
- ④そうすると、自動でダウンロードが始まるか、操作の選択（「開く」、「保存」等）を問う画面が、画面下部に表示されるので、都合の良いフォルダ（「ドキュメント」など）を選んで保存する。
- ⑤保存したフォルダ（自動で保存された場合は、「ダウンロード」フォルダ等、各自の PC の設定によって異なる）を開いて、ダウンロードしたファイル「SHE05_Worksheet_2020a」をダブルクリックする。
- ⑥そうすると、Microsoft Word が起動して、記入用紙が表示される。画面上部に「編集を有効にする」というボタンが表示された場合は、そのボタンをクリックする。以上で、作業の成果を記入する準備ができるので、⑦以降の手順で、重ねるハザードマップを用いて作業を行う。
- ⑦再び、「小学校専門科目社会地理分野のページ」に戻って、第 5 回 5/20 の、重ねるハザードマップとある青ボタンをクリックする。
- ⑧そうすると、重ねるハザードマップという Web サイトが別ウインドウで開き、大阪市とその周辺の地図が表示される。そして、重ねるハザードマップで、次ページの説明を参考にして、洪水時の浸水範囲、津波による浸水範囲、土砂災害危険箇所を表示して、附属天王寺小学校、附属平野小学校、附属池田小学校のそれぞれが、浸水、土砂災害の危険があるか否かを確認して、洪水、津波については、浸水の有無と有の場合は浸水深を記入用紙に記入する。土砂災害については、危険の有無と有の場合は土砂災害の種類を記入用紙に記入する。また、附属小学校周辺の避難所を、それぞれ学校から近い 3 か所を選んで、浸水、土砂災害の危険があるか否かを確認して、学校の場合と同様に記入用紙に記入する。その作業結果を基に、附属天王寺小学校、附属平野小学校、附属池田小学校のそれぞれについて、大雨で洪水・土砂災害の危険が高まり、避難指示が出された場合どうするか？また、南海トラフを震源とする地震が発生して、大津波警報が発令された場合どうするか？を考えて、記入用紙に記述する。

重ねるハザードマップの操作法

○浸水範囲、危険区域の表示法

画面左上部の洪水アイコンをクリックすると、洪水時の浸水範囲と浸水深が表示される。その下に薄い青緑で表示された「洪水浸水想定区域（想定最大規模）」の右にある「解説凡例」とある青いボタンをクリックすると、凡例が表示され、なに色の浸水深がどのくらいかを確認でき

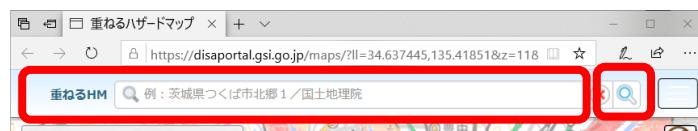
る。同様に、画面左上部の土砂災害アイコンをクリックすると、土砂災害危険箇所が表示され、その下に「急傾斜地の崩壊」や「土石流」といった土砂災害の種類別に解説凡例が表示される。また、津波も同様に、画面左上部の津波アイコンをクリックすると、津波による浸水範囲

と浸水深が表示され、その下に「津波」の解説凡例が表示される。



○附属小学校の探し方

附属天王寺小学校、附属平野小学校、附属池田小学校の位置が分からぬ場合は、画面上部にある検索窓を利用する。画面上部の「重ねる HM」の右の空白に「附属天王寺小学校」と入力して、検索ボタンをクリックすると、附属天王寺小学校の位置に、旗のアイコンが表示される。



○避難所の表示法

避難所の表示は、かなり拡大表示してから行わないと、表示に著しく時間がかかるので、大阪市全域くらいの範囲を表示している場合は、さらに拡大して、附属小学校の周辺まで拡大しておくこと。まず、画面左上部の洪水等のアイコンの下にある「すべての情報から選択」をクリックして表示される「指定緊急避難場所」をクリックして表示される「洪水」をクリックすると、洪水に対応した避難所が地図に表示される。同様にして、土砂災害に対応した避難所は、「崖崩れ、土石流及び地滑り」をクリックすると表示され、津波に対応した避難所は、「津波」をクリックすると表示される。

